

2013.1.18

第1回 「ビクター高柳会」(スピーチ録)

■司会 (藤本 正熙) :

今日は恒例の高柳記念財団主催の高柳賞受賞式で、先程講演会も含めて無事終わったところでございます。恒例ですと、その後パーティという流れもあったのですが、諸般の事情で昨年あたりからそういうこともなくなったということでございますので、ビクターに在籍した者としては少し寂しいかと、何とか先生のお誕生日の日にみんなでお話合えるような会がつかれないかということで、昨年皆さんにお諮りしましたところご賛同いただきまして、本日開催という運びにさせていただきました。約50名近い方々にお集まりいただきました。お寒い中、お運びいただきまして本当にありがとうございました。

それでは、高柳先生とビクター苦難の時期に苦労を共にされました平田様がお見えになられていらっしゃると思います。特に平田様は、高柳記念財団をおつくりになる時に、大変お骨折りをいただきました。第一回目の開催ということでございますので、はじめに平田様からお話を賜りたいと思います。平田様、よろしくお願いいたします。

■平田 雅彦様：・・・別掲載

■司会 :

ありがとうございました。この会のあるべき姿を平田様からご教示いただいたんじゃないかなと思いますが、どうも本当にありがとうございました。

それでは乾杯に移りたいと思います。乾杯の音頭を白石さんをお願いしたいと思います。白石さんは高柳先生とだいぶやり合ったと伺っておりますが・・・(会場笑) よろしくお願いいいたします。

■白石 勇磨様 :

白石です。拝見しますと私もこれだけたくさんの人と知り合いになっていたんだなあと思ってしまうように、沢山の方々がいらしまして・・・。高柳先生を偲ぶということになると思うんですが、いろいろ問題もあったし(笑)、いろいろ乗り越えなければならないこともありました。何とかその時代には殆んどの問題について乗り越えることが出来たということなんですが、それについては皆さんもたくさんの思い出もあるでしょうし今後の進め方についてのお考えもあると思います。早速乾杯に移りたいと思います。それでは高柳先生への感謝、それから多くの皆さんがこれからも大いに元気で前へ進まれることを願ひまして乾杯をしたいと思います。乾杯～。(拍手)

■司会：

白石さん、ありがとうございました。

会場の正面の「ビクター高柳会」の看板は、横内さんにお世話をいただきまして、こんな立派なものが飾れました。お礼を申し上げます。ありがとうございました。 それでは、しばらくご歓談を・・・。

【前半のスピーチは以上】

参加者からのショートスピーチ

■坂井 勝則様（高柳記念財団専務理事）

2015 年(再来年)は財団設立 20 周年になる。

2026 年はテレビジョン発明 100 周年。国家事業として何か出来ればと考えている。

■町田 豊隆様

56 年前、高柳先生が、将来人工衛星によるテレビ中継が可能であるという話をされ、その最中に、初の人工衛星スプートニク成功のニュースが入り、先生の先見力に一同騒然。

■横内 隆昌様（カラー写真付きの会場吊り看板を寄贈）

みんなでニッパーマークにもう一度思いを寄せ、皆の力が一つになれば嬉しい。

■田中 利二様

CD-4 開発の時代、雑音除去回路が高柳先生との論議になり、「これは特許になる」と出願を即命じられ、5 年後に先生との共同出願特許が成立した。

■喜志 房雄様

初代 VDS 社長時代の高柳先生について。またタクシーの運転手さんを家にあげてお茶を振る舞う先生の奥様の陰の力を紹介し、偉い人には素晴らしいバックがあったと。

■佐々木 弘忠様

全国の店回りが多かったオーディオ時代、営業部長から「高柳先生をお呼びしているから、事業部長いいです」と言われた。先生には影から力をいただいた。

■廣田 昭（ビクター高柳会幹事）

高柳先生は、人生の大半をビクターで過ごされ、没後 23 年の今なお財団を通じて活動中の方です。ビクター高柳会を通じて先生の生きたメッセージを若い世代に伝えたい。

■熊崎 利昌様

著書「テレビ事始め」の中に先生のお人柄が全部表れています。先生は大食漢であり、
食べ食べとよく叱られました。

■中締め：坊上 卓郎様

こんな立派な会を催してくれてありがとうございました。出来れば若い人にもっと入っ
てもらいたい。また来年元気で会いましょう。・・・・ （一本締め）

以上